

椅子

掃除機が鳴っている

礼拝堂のなか

つるつるした木の背もたれ、お尻のところ
どの椅子も

そこだけニスが剥げている

きつと月曜は毎週そうしてきたんだ

Tシャツごしに

せなかの脂肪をゆらすかれは

こちらを気にとめない

すすり泣きよりも乱暴なひきずるしかた

そっけない、でもやっぱり

血がかよってる

靴のなかで指がぎゅっとまるまる

すみきった

ひとときわふかい断層にみとれた

だけど

ざらつくおとのほか

なにかきこえていたか

ケイ

なあ知ってるか、祈るということ

スターバックスの

なみなみとつがれた紙コップ

あんなふうに、ひとは持ちあるく

こぼさぬように首のうしろをかたくして

別れの記憶

うかがい知れぬこと

舌にのこる髪の毛のような

一本の針金

いつだったか頬のうらにあたるその一本を
はきだそうとして

落ち葉のいいにおいがした

枝がふっと折れるようにちからがぬけて

この肺もやぶれること

これは知ってる

だから輪郭を

はっきりさせてしゃべりたい

けだるく

視線のとどかない午前中

ひとりでかれがきれいにしている

まっすぐに床にならべられている、古い椅子

だれかがここに腰かけて

木の温度でたちさった

あたりにこぼれた靴底の泥

一週間のホコリ

こなごなの枯れ葉

しがみつく虫、ぬけおちた髪の毛も

そのたしかな、ひとつひとつの呼吸がくらやみへ

みぶるいするほど

あっというまに吸いこまれていく

離陸する

旅客機のような振動につつまれて

ドラム型の掃除機と

胡桃がひとつつころがっている

だれかのおと

鳴りやまないおとを

おそれもなくきいたということなのか